令和5年度　大田区立雪谷中学校　自己評価　報告書

令和6年3月8日

○　本校の概要

ＹＡＳ　Yukigaya Active School　～常に動き続け、「積極的・自発的」（active）に「より良い学校」を目指す～

【目指す生徒の姿】
1）自己や他者の良いところに目を向けることができ、自己肯定感が高い生徒　2）コミュニケーション能力、表現力を持ち、他者と協働できる生徒　3）学力・体力の向上を目指し、ねばり強く努力する生徒

【目指す学校教育の姿】
1）わかりやすく、生徒が主体的に学べる授業　2）様々な個性を持つすべての生徒に対する温かく根気強い支援　3）保護者の思いを理解した、良きパートナーとしての誠意ある連携

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

保護者アンケート回収率 51.1%

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄 評価	人数	コメント
プラン１　未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしなやかに対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とのコミュニケーション能力の育成等を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4	学校評価アンケート 生徒項目１ 「学習の中で、タブレットなどを使うことは、自分の勉強の役に立っている」 生徒項目２ 「授業や学校生活で、友達と話し合ったり、協力しながら活動することができている」 に対する肯定的回答の%	4: 1 80%以上 2 80%以上 3: 1 70%以上 2 70%以上 2: 1 60%以上 2 60%以上 1: どちらかが60%未満	4	生徒項目1「学習の中で、タブレットなどを使うことは、自分の勉強の役に立っている」への肯定的回答は94%であった。 成果指標「4」にあたるほぼ9割以上の生徒が、「自分はICT機器を活用して学習することが勉強の役に立つ」と感じていることがわかる。雪谷中学校では1人1台配布された生徒用タブレットを、全教科の授業で活用しており、生徒たちもスムーズに活用できている。タブレット端末を使って生徒たちは様々な学習や作業に取り組み、現在は基本的な操作に関してはもちろんのこと、班やグループの意見集約やレポート等のまとめ作業などあらゆる授業の場面において活用している。引き続き活用を続けることで、ツールとしての習熟を図りたい。 生徒項目2「授業や学校生活で、友達と話し合ったり、協力しながら活動することができている」への肯定的回答は92%であった。 今年度は、新型コロナウイルス等の感染症拡大防止対策に配慮しつつ、5類感染症移行後はコロナ以前の授業で行っていたグループワーク等の班学習やペアワークを実施した。自分の意見を発表したり、他の生徒の意見を聞く、またはタブレット等で意見集約活動を行い、対話的な学びの実現に務めている。また学級活動や行事、部活動など、学校生活の様々な場面で、友達と話し合い、協力して、切磋琢磨しながら目標を達成する活動を大切にしている。 それらの活動によって、多くの生徒が「行事等後の達成感があった」「自分の意見が前提の意見として反映されている」と感じている（面談・面接練習等での聞き取りより）。 今後も他者を尊重しながら、協働する活動を推進し、生徒のコミュニケーション能力や自己肯定感の向上に努めたい。	A	6	・生徒アンケートの結果が90パーセント超はすごい結果だと思います。今年度、生徒会の皆さんと連携したなかでもそれを実感できました。 ・タブレットを活用している姿を学校公開で見ました。効果的に活用されていると思います。 ・うまく利用することによって、子どもたちの学力向上につながればと思っています。
		論理的、科学的な思考力の育成を目指し、「おおたのものづくり」を生かした体験活動や理数授業等を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4					B	0	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:設置教室を使用する全正規教員が週1回以上活用した。 3:80%以上の正規教員が週1回以上活用した。 2:60%以上の正規教員が週1回以上活用した。 1:60%未満であった。	4							
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4					C	0	
		体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4							
		学級活動、学校行事、委員会活動、部活動等で、他者と話し合ったり、協力しながら活動する場面を設定し、コミュニケーション能力を育成する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					D	0	
プラン２　学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級（全教員）で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	学校評価アンケート 生徒項目３ 「前向きに学習に取り組むことができている」 生徒項目４ 「授業では、話し合い活動や発表する活動で、友達の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができている」 に対する肯定的回答の%	4: 1 80%以上 2 80%以上 3: 1 70%以上 2 70%以上 2: 1 60%以上 2 60%以上 1: どちらかが60%未満	4	生徒項目3「前向きに学習に取り組むことができている」への肯定的回答は84%であった。 各教科で学習の取り組み方や学習方法などを指導し、定期考査前にはまとめの資料を配布するなど、生徒が学習しやすいよう支援している。また、連絡ノート「忘れないぞう」に学級担任がコメントを記入することで学習や生活への助言を行っている。個別支援としては、学校の授業がない土曜日に年間6回の「土曜補習教室」を実施し、夏季休業中には「補習教室」やコミュニティスクール主催の「自習教室」を実施した。大部分の生徒が前向きに学習に取り組んでおり、今後も引き続き支援に努めたい。 生徒項目4「授業では、話し合い活動や発表する活動で、友達の意見を聞いたり、自分の考えを伝えたりすることができている」への肯定的回答は88%であった。 対話的な学びによって自分の意見と他者の意見を比較することで生徒自身の視野を広げ、理解を深めて、思考力・判断力・表現力を育成することは、生きた学力の獲得に欠かせない。大田区の中学校では毎年授業改善推進プランを作成して授業の改善を行い、学力向上に取り組んでいるが、雪谷中学校では、ICT機器を利用し、主体的な学びや対話的な学びを取り入れることに力を入れている。今後も高い意識をもって学力向上に取り組んでいく。	A	6	・とても良い結果だと思います。家庭学習でも良く利用されています。 ・自分の意見だけではなく、クラスの友人の意見を参考にして考えることはとても有効な学習だと思いますので、継続して欲しいと思います。 ・今年度のCS企画で生徒同士の交流の良さを体感しました。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2～3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3					B	0	
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4							
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上が回答した。 2:60%以上が回答した。 1:60%未満であった。	4					C	0	
		授業の中で、生徒が他者の意見を聞いたり、自分の意見を発表したりする活動を設定し、思考力・判断力・表現力を育成する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4					D	0	
プラン３　豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育成するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	学校評価アンケート 生徒項目５ 「学校の決まりや集団のマナーを、きちんと守って生活している」 生徒項目６ 「いじめを許さない気持ちを持ち、友達とはお互いを尊重して、仲良く生活することができている」 への肯定的回答の%	4: 1 80%以上 2 80%以上 3: 1 70%以上 2 70%以上 2: 1 60%以上 2 60%以上 1: どちらかが60%未満	4	生徒項目5「学校の決まりや集団のマナーを、きちんと守って生活している」への肯定的回答は97%であった。 ほとんどの生徒が学校の決まりや集団のマナーを守って生活していこうとする意識が高く、昨年度より数値が上昇している。こうした生徒の意識が、落ち着いた学校の雰囲気を形作っていることがわかる。みんなが決まりやマナーを守っていることにより、生徒たちは安心して生活し、自己の伸長に努めることができる。今後も落ちついた生活を送ることができるよう、きめ細かな生活指導に努めたい。 生徒項目6「いじめを許さない気持ちを持ち、友達とはお互いを尊重して、仲良く生活することができている」への肯定的回答も96%であった。 こちらも、ほとんどの生徒が他者を尊重し、友達と仲良く生活していこうとする意識が高いことがわかる。この項目は、中学校生活の基盤として、雪谷中学校が最も重視している取り組みであり、いじめを決して許さず自他を尊重する姿勢は、あらゆる教育活動を通して繰り返し指導している。また、雪谷中学校の生徒たちが友達を大事にし、明るく穏やか、そして朗らかに生活しようとする姿勢は、ご家庭の教育力の高さにも支えられている。ご家庭の教育に感謝したい。 同時に、昨年度よりは数値が下がってはいるが、2%の生徒が「どちらかといえばそう思わない」、1%の生徒が「そう思わない」とマイナス回答している現状を真剣に受け止め、人間関係作りや対人関係に困っていたり、他者とのコミュニケーションに課題のある生徒たちの支援に努めたい。学校では、生徒間の小さな問題やトラブルを話題にした連絡会を毎週行い、教員間での情報共有を密にすることに取り組んでおり、いじめや人間関係トラブルの早期発見に努め、組織的に解決を図る態勢を作っている。今後も組織的にいじめの解消に取り組み、すべての生徒が安心して生活できる学校づくりに努める。	A	6	・"いじめ"の課題については、今後の改善策にある通り、マイノリティーの声を拾いつつ、いかに対応するかだと思います。CSでも考えていきたいと思います。 ・ルールやマナーを守ることは卒業してから社会人として生活していく上で大切なことだと思います。中学生のうちに自然と身につくといいですね。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3					B	0	
		学校生活調査（メンタルヘルスチェック）の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4							
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4					C	0	
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておおかた会議を実施した。 2:必要な事案に対してあまり会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4							
		苦手な分野があったり、支援が必要な生徒に関する連絡会議を定期的に実施する。	4:月1回以上実施した。 3:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 2:学期に1回（年間3回）以上行った。 1:実施しなかった。	4					D	0	
プラン４　体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4	学校評価アンケート 生徒項目７ 「『早寝・早起き・朝ごはん』に取り組む、進んで体を動かすなど、自分の健康に気を付けて生活している」 生徒項目８ 「部活動、学校行事等に積極的に参加している」 への肯定的回答の%	4: 1 80%以上 2 80%以上 3: 1 70%以上 2 70%以上 2: 1 60%以上 2 60%以上 1: どちらかが60%未満	4	生徒項目7「『早寝・早起き・朝ごはん』に取り組む、進んで体を動かすなど、自分の健康に気を付けて生活している」への肯定的回答は82%であった。 『早寝・早起き・朝ごはん』月間には、チェックシートに起床時間・就寝時間・朝ごはんを食べたかを記入してもらい、生徒が自分の生活を意識できるよう取り組んでいる。9割近くの生徒が達成できており、ご家庭の教育に感謝したい。学校でも引き続き、健康な体づくりに向けて指導を行っていく。 生徒項目8「部活動、学校行事等に積極的に参加している」への肯定的回答は88%であった。 部活動に参加している生徒は熱心に活動しており、新型コロナウイルス等の感染症が5類に移行後は感染症対策を行いつつしっかり活動を行い、大会やコンクール等で立派な成果を多くあげている。学校行事でも、マスク着用等の制限がなくなり、行事に対して自分のできることを精一杯やろうとする姿が見られた。今後も、生徒が少しでも充実した体験ができるよう活動を工夫していきたい。	A	6	・「早寝・早起き・朝ごはん」はとてもよい取り組みだと思います。中学生は塾や部活動で忙しい毎日を送っている感じですが、意外と健全で安心しました。 ・大会結果が出ていることが評価成果だと思います。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらいとした「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					B	0	
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					C	0	
		全教員が部活動や委員会活動を担当し、自分から動く姿勢や日常的に体を動かす習慣を身に付けさせる。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4					D	0	
プラン５　魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	学校評価アンケート 生徒項目９ 「授業は映像や図で見せるなど、工夫があってわかりやすい」 生徒項目10 「困ったことがあるときは、先生に悩みを話したり、相談できる」 への肯定的回答の%	4: 1 80%以上 2 80%以上 3: 1 70%以上 2 70%以上 2: 1 60%以上 2 60%以上 1: どちらかが60%未満	3	生徒項目9「授業は映像や図で見せるなど、工夫があってわかりやすい」への肯定的回答は89%であった。 良い教育環境としてまず重要なことは「授業がわかりやすい」ということである。雪谷中学校では今年度及び来年度に大田区教育研究推進校になっており、ICTを活用した研究を推進している。その研究の過程で探求的な学びや対話的な学び、自律的な学びにおいて授業改善を図っている。今後も引き続き「わかりやすい授業」づくりに努める。 生徒項目10「困ったことがあるときは、先生に悩みを話したり、相談できる」への肯定的回答は昨年度より若干向上し74%であった。 教員と生徒との相互の信頼関係を確率するよう取り組んでいる。日々の何気ない声かけから信頼関係築くように努力している。しかし、SNSのトラブルなど、大人に話しにくく、友人関係や事態が悪化してから先生に相談するケースも見られた。相談には丁寧に対応するとともに、重大な悩みを自分一人で抱え込むことがないよう、学校以外の相談機関との連携や紹介も行っている。	A	6	・授業の中に多くの工夫があるので、「わかりやすい」という評価につながっているのだと思います。 ・SNSのトラブルは家庭での約束事が大切だと自戒しています。 ・このテーマについてもCSが進む中でPTAでサポートできることをしたいと思います。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2～3回（年間6回）以上行った。 3:学期に1回（年間3回）以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	3					B	0	
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3					C	0	
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:月1回以上行った。 3:学期に2～3回行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4					D	0	
プラン６　学校・家庭・地域が一体となってともに進める教育	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:月1回以上更新した。 3:学期に2～3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	学校評価アンケート 保護者項目11 「学校は、学校の情報を保護者・地域に伝えている（学校だより、学年だより、HPなど）」 保護者項目12 「学校では、地域社会の一員としての自覚を持たせるような活動を行っている」 に対する肯定的回答の%	4: 1 80%以上 2 80%以上 3: 1 70%以上 2 70%以上 2: 1 60%以上 2 60%以上 1: どちらかが60%未満	3	保護者項目11「学校は、学校の情報を保護者・地域に伝えている（学校だより、学年だより、HPなど）」への肯定的回答は93%であった。 今年度は、新型コロナウイルス等の感染症が5類に移行後、保護者の方々が学校を訪れる機会をコロナ以前の状態に戻している。学校HPで生活の様子を発信するなど、学校からの情報発信に努めた。引き続き、ていねいで正確な情報発信を心がけたい。 保護者項目12「学校では、地域社会の一員としての自覚を持たせるような活動を行っている」への肯定的回答は73%であった。 現在はコロナ以前の活動状態に戻っている。吹奏楽部を中心に地域の活動に参加できる機会も多くなっている。また、今年度はコミュニティスクール主催での行事に生徒会を中心に企画から参加し、かなりの人数の生徒が参加できた。また、校内で行うことができるボランティア活動を生徒会を主体として生徒自身が考えて実施した。また、職場体験を実施し、生徒に良い体験をさせることができたことは成果と考えている。今後も教育活動を工夫し、生徒の体験を充実させていきたい。	A	6	・コロナの五類移行がされたので、ボランティア活動や地域の行事に積極的に参加して欲しい。 ・CS企画が出来たこと自体が開かれた学校の結果だと思います。ありがとうございます。・今年度はみこし担ぎが出来ませんでしたが、来年度はぜひ再開したいです。 ・コミュニティスクールのことを少しずつ保護者にアナウンスしていけたら良いと思います。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の変容等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:毎回情報を提供した。 3:おおむね情報を提供した。 2:あまり情報を提供しなかった。 1:情報を提供しなかった。	4					B	0	
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	4:学期に2～3回行った。 3:学期1回以上行った 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	3					C	0	
		「学校だより」「学年通信」等を通して、学校の情報を保護者に伝え、学校と家庭の連携を図る。	4:月1回以上実施した。 3:学期に2～3回実施した。 2:学期1回以上実施した。 1:実施しなかった。	4					D	0	

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を